

中山間地域ふるさと事業 について

埼玉県農林部
農業ビジネス支援課

中山間地域ふるさと事業の背景

現状

- 高齢化する中山間集落（H27高齢化率 33.7%・全県24.6%）
- 人口減少の進行（H22 → H27 96.92%・全県101.00%）
（平成27年国勢調査）

課題

- 高齢化、人口減少により地域コミュニティの維持が困難
- 営農の継続、伝統文化の継承、耕作放棄地の増加等が懸念

これらの中山間地域が抱える課題に対応するために



「中山間地域ふるさと事業」を実施

中山間地域ふるさと事業とは

- ▶ 中山間地域が有する多面的機能の発揮と、地域住民活動の活性化を目的とする。
- ▶ 中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱（農林水産省）に基づき、都道府県に基金を設置。埼玉県の積立額は6億9千万円。
- ▶ 事業主体は都道府県。
- ▶ 運用益と基金を取り崩して事業費としている。平成28年度事業費は約8,796千円。

事業の構成

1 調査研究事業 (平成28年度事業費：7,850千円)

- ・ 地域住民活動の活性化に係るワークショップ等の実施
- ・ 集落営農を確立するための新たな生産技術や鳥獣害対策の調査研究

2 研修事業 (平成28年度事業費：75千円)

- ・ 地域活性化に必要なリーダーとなる人材を育成するための研修会の実施

3 啓発推進事業 (平成28年度事業費：871千円)

- ・ 中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動の実施

中山間地域ふるさと事業計画(H27～H31)

事業区分	事業名	計画期間 の事業量	単位	年度別事業量				
				H27	H28	H29	H30	H31
1 調査研究 事業	(1) 住民活動支援 (コンサルタント)	3	地区	1 (1)	→ (1)	1 (2)	→	1
	(2) 住民活動支援 (ふるさと支援隊)	新規 10	支援隊	2 (3)	2 (2)	2 (3)	2	2
	(3) 集落営農体制確立	10	課題	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2	2
2 研修事業	集落リーダー育成 研修	新規 10	人	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2	2
3 啓発推進 事業	(1) 啓発・普及活動	15	回	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3	3
	(2) 広報紙の配布	20	回	4 (4)	4 (4)	4 (3)	4	4

※ () 内は平成30年1月末時点での実施状況

コンサルタントによる支援

企業に委託して実施
1地区あたり200万円
を上限とする。

(平成28年度事業費：1,941千円)

地域住民の話し合いや地域による都市農村交流イベントの実施により、農林業・農山村の多面的機能の良好な発揮を促進する。

横瀬町（H28～H29）株式会社東京ランドスケープ研究所



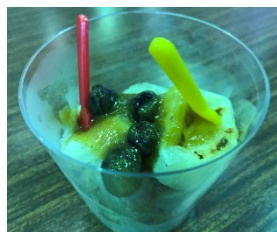
横瀬町が地域活性化を目指す中山間地域のモデルとなるよう、観光農園の充実及び各種イベントを通じた誘客者数の増加をテーマに活動を行っている。

< H 2 8 >

- ・横瀬町の地域資源を活用した商品開発
- ・多言語対応の地域資源マップの作成

< H 2 9 >

- ・料理専門家の協力による商品開発の強化
- ・グルメマップの作成
- ・地域活性化ビジョンの作成



コンサルタントによる支援

ときがわ町（H29～）ランドブレイン株式会社



観光施設の売上向上及び施設同士の連携を図ることによる地域活性化と交流人口の増加、更には地域雇用の増進と地域愛の醸成を目指し活動を行っている。

< H 2 9 >

- ・ 町有観光施設の調査・分析
- ・ 地域資源と観光施設の特徴を活かした売上向上への提案
- ・ モデル施設への個店研修を実施

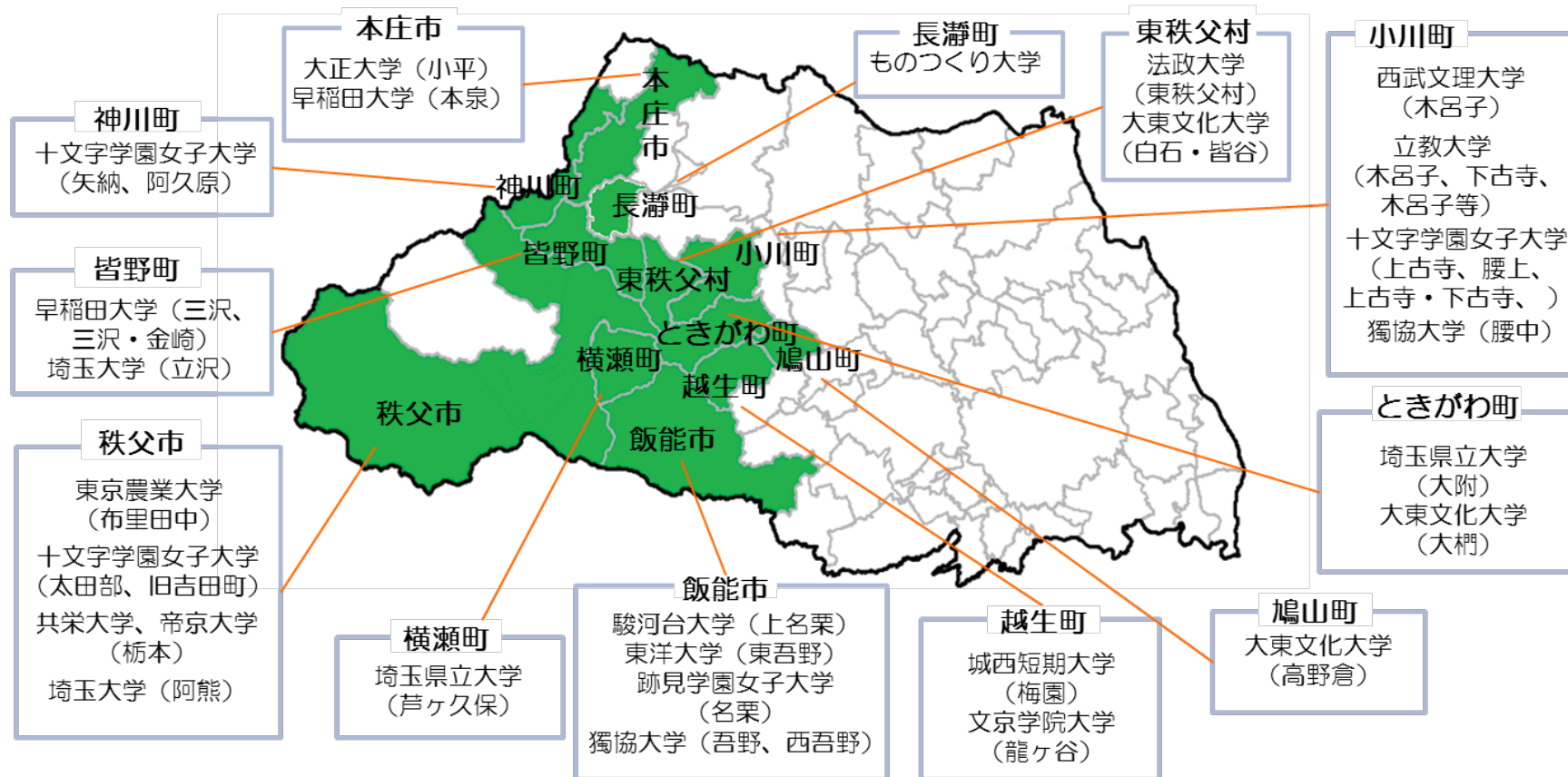
大学に委託して実施
1地区あたり50万円
(継続地区は40万円)
を上限とする。

ふるさと支援隊による支援

(平成28年度事業費：5,088千円)

大学生等の持つ新しい視点や行動力、専門技術・知識など「外からの力」を活用することによって、集落の活性化を図る。

平成22年度から延べ35支援隊が活動している。



ふるさと支援隊の活動(H28)



獨協大学(小川町腰中地区)
・観光客増加や景観美化を目指し、コスモス畑を整備した。
・地域住民と協働で、野菜の栽培を行い、鳥獣害対策として専門家の指導のもと電気柵の設置も行った。



埼玉県立大学(ときがわ町大附地区)
・ときがわ町の良さ、移住者を受け入れるための課題を明らかにするために、移住者向け訪問調査を実施した。
・高齢者のサロン活動などに参加し、レクリエーション活動を行う。



東京農業大学(秩父市布里田中地区)
・地域住民と協力し、地元の小学生を対象に田植え・稲刈り体験を実施。
・吉田の持続を考えるワークショップを開催し、地域住民とともに今後の対策を検討している。



十文字学園女子大学
(神川町阿久原地区)
・神川町の食・農・自然を「オーガニックビレッジ神川」としてブランド化することを目指し、情報発信を行う。
・農作業、料理検討会の実施。



十文字学園女子大学
(小川町上古寺・下古寺地区)
・地域の高年層と若年層を繋ぎ、持続可能なコミュニティにするための支援を行う。
・伝統行事「エンエンワ」を支援。



駿河台大学(飯能市上名栗地区)
・頻りに現地に足を運び、地域住民の指導も得て古民家を再生、活動拠点としてエコツーリズムを実施。
・遊休農地の解消を目指して、畑づくりをし、野菜の栽培も行っている。

ふるさと支援隊の活動(H28)



東洋大学(飯能市東吾野地区)
・健康増進や交流人口増加を目指し、ウォーキングイベントやグランドゴルフ大会の運営を企画段階から支援。
・料理コンテストや餅つき大会の企画運営を支援。



文京学院大学(越生町龍ヶ谷地区)
・お宅訪問インタビューを行い、地域資源の洗い出しを行い、オリジナルのマップを作成している。
・動画投稿サイトにて学内チャンネルを設け、地域情報や活動状況をPR。



十文字学園女子大学(秩父市旧吉田町地区)
・高齢者の訪問を行い、暮らしや農林業についての昔話を収集している。
・地域の祭に参加し、伝統行事の実践、映像化等の保存継承活動を実施。



大東文化大学(鳩山町高野倉地区)
・鳩山大豆ブランド復活を目指し、地域在来の手法で大豆を栽培している。
・加工品開発や地元の小学生を招いた枝豆の収穫体験を実施し、まちの話題となる積極的な広報活動を実施。



立教大学(小川町木呂子地区等)
・農業支援や空き家改修のほか、地域の食材を活用した御菓子づくりワークショップ等多様な活動を実施。
・ふるさと支援隊の活動をニュースレターにまとめ、地域に発信している。



ものつくり大学(長瀬町地区)
・観光資源活用の最適化を図ることを目的に町内各所でのアンケート調査・分析を行っている。
・調査結果を基に、有効な観光資源活用方法について検討を行った。

ふるさと支援隊の活動(H29)

	大学名	市町村	対象集落	活動テーマ	継続/新規
1	十文字学園女子大学	神川町	阿久原	有機農業を核としたふるさと再発見	継続4年目
2	十文字学園女子大学	小川町	上古寺 下古寺	エンエンワという伝統行事を核に中高年層と若者層をつなぐ コミュニティーデザインによる持続可能な地域創り	継続4年目
3	駿河台大学	飯能市	上名栗	楽山人塾 ～地域資源を活用するための学生と名栗住民との協働～	継続4年目
4	東洋大学	飯能市	東吾野	食と運動の健康づくりサポートプロジェクト	継続4年目
5	十文字学園女子大学	秩父市	旧吉田町	伝統行事と農作業を通じたふるさと支援	継続3年目
6	大東文化大学	鳩山町	高野倉	「鳩山大豆」の栽培・加工・広報による「元気創造」プロジェクト	継続3年目

	大学名	市町村	対象集落	活動テーマ	継続/新規
7	立教大学	小川町	原川、笠原、 鞠負、木部、 勝呂、木呂子、 増尾、飯田	「使われなくなったもの」の価値の再発見を通じた地域活性化	継続2年目
8	ものづくり大学	長瀨町	—	長瀨町の観光に関する地域住民と来訪者のイメージギャップの可視化による観光資源活用方策の最適化	継続2年目
9	早稲田大学	皆野町	三沢 金崎	多世代・多文化交流を基盤とした祭りによる地域活性化と健康創成	新規1年目
10	獨協大学	飯能市	西吾野	観光・地域資源の活用と支援並びに保存活動	新規1年目
11	大東文化大学	東秩父村	白石 皆谷	東秩父村中山間地域の暮らし(食、慣習、自然風土)を通じた交流の創造	新規1年目

「ふるさと支援隊」同士の交流



「ふるさと支援隊」交流会(H29)

他の支援隊の活動内容を知り、活動の悩み等を解決し、今後の支援活動に活かすことを目的として開催。

(1)第1部 活動報告

各支援隊がこれまでの活動内容や今後の活動計画について発表した。



(2)第2部 情報交換

活動における課題の解決について自ら考え、実践するきっかけとし、支援隊の横のつながりを作るため、グループ毎に分かれて情報交換を行った。

テーマを設定せず、自由な話し合いとすることで積極的な意見交換が行われた。

⇒ 平成30年2月に最終活動報告会を開催し、今年度の活動成果を報告予定

県農業技術研究センター等による支援

(平成28年度事業費：821千円)

集落全体で取り組むべき新たな生産技術や鳥獣害対策等の調査研究を行い、農業生産の維持・拡大による中山間地域の活性化を図る。



鳥獣被害防止対策推進事業 (633千円)

- ニホンザルの効果的被害対策の研究
- 新たな被害防止技術(柵)の開発
- 加害動物に関する知識を周知するための画像を確保し、効果的な啓発活動を実施



秩父地域の風土を活かした茶の製造法の確立 (188千円)

- 緑茶用品種の茶葉を活用した紅茶製造法の確立
- ティーバッグ向け加工の試作検討
- アグリフードEXPOに出展し、新規需要を開拓

ふるさとリーダー育成研修

(平成28年度事業費：75千円)

中山間地域の活性化の推進及び助言等を行う人材を育成する。

外部人材を活用した地域活性化



- <H28> 参加者数：38名
「外部人材を活用した地域活性化への取組」
- ・外部人材を受け入れる際の受入側と支援側双方の心構え
 - ・移住に関する現状



- <H29> 参加者数：31名
「中山間地域における地域おこし、外部人材との協働」
- ・地域おこし協力隊制度の活用
 - ・移住促進に向けた取組

中山間地域における取組の広報

(平成28年度事業費：871千円)

中山間地域の持つ多面的機能の理解増進についての普及・啓発活動を実施する。

各種イベントでのPR活動

<H28、H29>

- JR浦和駅において中山間地域の観光農業をPR
- 彩の国食と農林業ドリームフェスタにおいて埼玉県の中
山間地域の農業をPR
- 高坂SAにて中山間地域の観光農業をPR



広報誌の配付

中山間地域の農村の魅力や活性化の取組を紹介する情報誌『新・田舎人』を配布

※ 年4回配布(6月、9月、12月、3月)

